

정월대보름 (小正月)

太宰府市国際交流員 金辛滋

「정월대보름 (小正月)」は、旧暦1月15日にあたる、韓国の伝統的な祝日の一つで、2026年は3月3日です。この日は一年で最初の満月が昇る日であり、農耕を基盤としていた昔の韓国社会では、月は古くから、豊穡や生命力の象徴とされてきたため、満月が昇るこの日には、農作物の実りや家族の健康、無病息災を祈る意味が込められていました。

この日に行われる代表的な風習が「부럼」で、これはクルミ、松の実、ピーナッツなど、硬い殻を持つ木の実を奥歯で噛み割ることで、体調を守ると同時に厄除けを願う意味が込められています。この習慣は、特に「吹き出物ができないように」「歯が丈夫でありますように」という願いが込められているとされています。また、木の実を割ることで、体内の悪い気を払い、今年一年が健康で無事で過ごせるよう祈る意味もあります。

夜になると、地域ごとに様々な地域行事が行われます。例えば、綱引き、橋踏みなどが一般的です。これらの行事は、村や町の住民が集まって行うことで、コミュニティとしての絆を強め、来年の繁栄や無事を祈るものです。

このように、韓国の小正月は、農業や家族、地域社会に根ざした多くの文化的・宗教的意味を持つ日です。月を通じて自然の恵みに感謝し、来年の繁栄や健康を祈るこの日は、都市化が進み、少しずつ簡略化されている部分もありますが、今も大切にされています。

季節の生け花

太宰府市華道連盟



たまがわ まさこ 玉川 直子 小原流 (高雄区)

花材：ハスモクレン、ツバキ、オンシジウム

International Exchange - South Korea



太宰府短歌会

住宅地に笑窪のやうに有りし田の
とんぼの群は今まぼろし
五条 / 山田 乃ぞみ

中天にスーパームーン明し夜
仕事帰りの吾の影作る
筑紫野市 / 渡辺 保子

権利書にやや角ばりし父の文字
「司法書士」なりし印偲はるる
青山 / 亀淵 咲子

炉開きに亥の子餅を食み歌の会
特攻隊の歌胸が痛むなり
福岡市 / 玉本 朝子

あの雲に絡んだ心の塊を
スコンと抜くこと石を蹴りたり
朝倉郡 / 平岡 和代

太宰府俳句会

持永 真理子 選

飛梅の遅速に交はず会話かな
馬場 / 有岡 和砂

頂を隠す一景雲と雪
連歌屋 / 吉嗣 のり子

飛梅句会

介弘 紀子 選

部活へと急ぐ朝餉の寒卵
福岡市 / 工藤 友子

弓手今きりりと決まる寒稽古
朝倉市 / 古賀 紀子

雑念を消しゆく走り寒稽古
大野城市 / 田代 りえ子

星空へ気合の素振り寒稽古
長浦台 / 徳賀 美智子

寒卵こつんと朝のしじま割る
観世音寺 / 野田 杉子

宝満句会

菅井 久美子 選

二人して行ける喜び初詣
青葉台 / 本山 晴子

よろしくと云うて言われて初詣
青葉台 / 平野 香

ピンコロを願ふ米寿の初詣
筑紫野市 / 名本 剛

神牛の腹まで撫でて初詣
高雄台 / 川路 泰子

日本の善き風習やお年玉
星ヶ丘 / 江里口 幸生

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選

人生は灰一握り寒の月
青葉台 / 彦坂 正亨

寒の水一気飲み干し浪人生
福岡市 / 塩飽 たかこ

母の手真つ赤つきたての鏡餅
福岡市 / 宮津 英里子

またひとつ誠忘れて福寿草
筑紫野市 / 寺田 恵子

新しき光運ぶや福寿草
筑紫野市 / 日永田忠孝子

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選

職退いて時代は追わぬ父の靴
水城ヶ丘 / 植村 克志

道草がふと甦る裏通り
福岡市 / 王丸 真知子

停戦へ落としどころの難しさ
春日市 / 大塚 茂

家計簿の鰻登りにしかめ面
観世音寺 / 河原 明子

蓋緩み秘密を風に晒される
国分 / 岸本 しずえ